

＜企画セッションへの予定討論＞

地域の持続性と社会イノベーション: 社会的受容性と協働ガバナンスから考える

環境経済・政策学会2017年大会
2017年9月9日・高知工科大学
滋賀大学 北村裕明

1. 企画セッションの4報告

- (1) 松岡・田中・勝田・諸岡 報告
「持続可能な地域を創る社会イノベーション: 社会的受容と協働ガバナンス」
- (2) 渡邊・升本・平沼・中村 報告
「低酸素社会アプローチと社会イノベーション: 長野県飯田市のケース」
- (3) 松本・島田・鈴木・李 報告
「資源循環型社会アプローチと社会イノベーション: 静岡県掛川市のケース」
- (4) 岩田・黒川 報告
「自然共生社会アプローチと社会イノベーション: 兵庫県豊岡市のケース」

2. 4報告の意義

- (1) 社会イノベーションの創発における社会的受容の過程の重要性を抽出した。
◇社会的イノベーションが実現する過程では、それを受け入れる技術的・社会制度的・経済的・地域的受容性が、協働のガバナンスを通じて動態的に形成されることを、3つの地域のケースの分析を通じて明らかにした。
- (2) 環境に関わる3つの代表的な社会イノベーションについて具体的なケースを分析した。
◇低酸素社会アプローチについては長野県飯田市のケース、資源循環型社会アプローチについては静岡県掛川市のケース、自然共生社会アプローチについては兵庫県豊岡市のケースを分析した。

3. 4報告への論点①

- (1) 松岡・田中・勝田・諸岡 報告について
ア) 社会イノベーションと技術イノベーションの関係
◇社会イノベーション創発は、何らかの技術的なイノベーションを契機としている。他方、萌芽的な技術イノベーションが地域における社会イノベーションの過程で、洗練され普及し新たな技術イノベーションに展開する。例えば、木質バイオマス技術イノベーションと真庭市における社会イノベーションの関係や、滋賀県旧愛東町における菜の花エコプロジェクトの全国展開等のケース。
- イ) 社会イノベーションと地域の持続性
◇地域の持続性の指標を何に設定するのか。人口という量か、創造的人材という質に着目するのか。徳島県神山町における創造的過疎の提唱。

3. 4報告への論点②

- (2) 渡邊・升本・平沼・中村 報告について
ウ) 飯田市における再生可能エネルギーへの取組は、太陽光発電を出発点として、木質バイオマスや小水力等に広がっているのか、太陽光発電への取組と環境マネジメントとの関係等、ある事業が他の事業に広がる過程分析も重要ではないか。
- (3) 松本・島田・鈴木・李 報告について
エ) 資源循環型社会形成の取組の中で、2016年に市民総代会システムを編成替えしたが、それは協働のガバナンスという点でどのような効果を持つのか。
- (4) 岩田・黒川 報告について
オ) コウノトリ農法/コウノトリ米の展開が、豊岡の社会イノベーションの今後にどのような展望を切り拓くのか。